

No. 01 / 生産する側になりたい

農業部門 ^{やまだ} 山田 岳 ^{がく} さん



山田 岳 さん
東京都青梅市出身。前職は食品メーカーに勤務。「食」の生産現場に携わりたい思いから令和6年4月より地域おこし協力隊として農家を目指し、研修中。

佐久間敏雄 さん
受け入れ農家として山田さんを指導。桃、りんご、あんぽ柿を生産。農業歴40年の大ベテラン。



食品づくりに興味があった山田さんは、食品メーカーで経理を担当していたが、生産現場に関わりたいという思いから農家を目指すようになった。青森県や秋田県で野菜と米の農業体験を重ねた中、果物が好きなことから果樹農家を志望。首都圏で開催された「就農フェア」で国見町のブースを訪れ、桃農家になったことのできる」と思い、「ここでならやりたかったことができる」と思い、地域おこし協力隊に応募した。

現在は、佐久間敏雄さん（森山）のもとで研修中。「長年やりたかったことができていますので作業すべてが楽しいです。天候に左右されることも農業をやっていると感じます」とうれしそうに話す山田さん。

1年目の今年は、1年間の作業の流れを覚えることを中心に取り組んでいる。2年目は、引き続き、技術や経験を積みながら、就農後の計画や自分なりの農業ビジョンの構築を進めていく予定とのこと。

受け入れ農家の佐久間敏雄さんに山田さんの印象を聞いたところ、「非常に真面目。もっと気楽にやってもらえれば。教えることが山ほどあるが、ひとつずつ覚えて、国見の桃農家になってほしい」と期待を寄せていた。

Future: **ミライのハナシ** —私がこの町でやりたいこと—



一人前の桃農家になって、支えてくれた方に恩返しすること

新参者の私を、快く受け入れてくれた国見町の方々へ感謝の気持ちを形にして、恩返しできるように、一人前の桃農家になっていきたいです。

No. 02 / 自然と向き合う
仕事に挑戦

農業部門 ^{なかじま} 中鳥 涼輔 ^{りょうすけ} さん



齋藤光弘 さん
受け入れ農家として中鳥さんを指導。桃、ぶどう、あんぽ柿を生産。農業歴30年の大ベテラン。

中鳥 涼輔 さん
神奈川県横浜市出身。前職はエンターテインメント業界で、令和6年4月より地域おこし協力隊に着任。

「昨年までIT関連の仕事をしていて、ITの進歩を肌で感じるうちに、自然と向き合う仕事にチャレンジしてみたいと思うようになった」と話す中鳥さん。国見町との出会いは、首都圏で開催された「就農フェア」というイベントで国見町のブースに立ち寄ったこと。「就農までの細やかな計画や受け入れ体制が整っていたこと、なにより説明してくれた職員さんの情熱と温かさに強く惹かれ、ここなら新しい一歩を踏み出せるかも」と当時を振り返った。

中鳥さんは桃農家になるため、昨年4月から地



域おこし協力隊として、桃農家の齋藤光弘さん（石母田）のもとで研修中。今は桃の剪定を学んでいる。

「農業1年目は、外の作業に慣れていないこともあり、体力的に厳しきを感じることも多くありました。そこで、基礎体力を上げるために密かにトレーニングを続け、8kgの減量に成功しました。おかげで作業が以前よりもスムーズに進められるようになりました」と嬉しそうに話してくれた。

「農業は、知識、体力、技術、経験が必要で、農家さんの凄さを日々実感しています。剪定ひとつにも、3年、5年、10年先を見据えて作業しています。自分もその域に近づけるよう努力していきたい」と農家への敬意と今後の意気込みを力強く語った。

Future: **ミライのハナシ** —私がこの町でやりたいこと—



桃農家になり、個人販売に挑戦してみたい！

桃農家として一人前になるため、必要な知識、技術、体力、経験を積んで、将来的には自分の農園を持ちたいです。また、消費者に直接届けられる個人販売に挑戦してみたいです。

【特集】

地域おこし協力隊

なりわい
～生業の種を蒔く～

地方への定住・定着を促進する施策として地域おこし協力隊ができてから今年で16年。都市地域から住民票を移し、地域協力活動を担う協力隊を、今では1000を超す自治体が受け入れ、6000人ほどの協力隊員が全国で活動しています。

「地域おこし協力隊」という制度を何のためにどう活用するのか。この間、各地で試行錯誤が続いてきました。そして現在、「地域課題解決に取り組みながら自己実現していく」といった従来のイメージにとどまらない、個々のキャリア形成にも資するユニークな試みが次々と生まれてきています。

この町にも、さまざまな思いを抱いて活動している地域おこし協力隊がいます。地域ブランドや地場産品の開発、農業への従事、地域教育——。自分自身がやりたいことを本気で考え、地域課題と向き合い、未来につながる仕事を体現するために突き進む地域おこし協力隊の“現在”取材しました。